

Karatsu 421

はじまりは唐津から —— 中里家の系譜にみる唐津焼の世界展

十二代中里太郎右衛門作
叩き唐津焼締壺

2017年4月7日 Fri - 5月7日 Sun
唐津市近代図書館 美術ホール

〒847-0816 佐賀県唐津市新興町23番地 Tel:0955-72-3467

開館時間:10時~18時(入場17時30分まで) 休館日:4月10日(月)、17日(月)、24日(月)

一般:500円 / 唐津市在住75歳以上の人:250円 / 高校生以下:無料

障がい者手帳を持っている人と同行者1人:無料(手帳をご提示ください)

主催:Karatsu421実行委員会(事務局/SAGATV) 共催:西日本新聞社/唐津やきもん祭り実行委員会

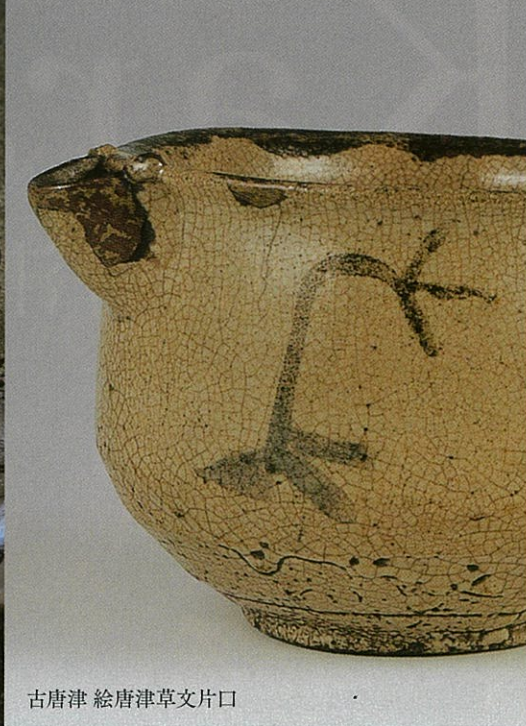
監修:十四代中里太郎右衛門 問合せ:サガテレビ事業企画部 0952-23-9112(月~金/9時30分~17時30分)



初代 中里又七 叩き黒唐津舟徳利



古唐津 絵唐津松文大皿陶片



古唐津 絵唐津草文片口

ごあいさつ

昨年、肥前窯業園が「日本磁器のふるさと・肥前」として日本遺産に認定され、有田は日本磁器誕生の地として有田焼創業400年を迎えました。近年、日本有数の焼き物の産地として再び注目を集めている肥前の焼き物ですが、そのはじまりは唐津と言われています。日本で広く施釉陶器が焼かれるようになったのは約400年前の文禄・慶長の役後と言われていますが、唐津は「唐(中国大陸)」へ向けた「津(港)」として大陸との交易が古くから行われてきたこともあり中国や朝鮮半島からいち早く施釉陶器の技術が伝えられ焼き物が焼かれてきました。本展覧会では、そのような唐津焼の歴史を代々唐津藩の御用窯を勤めてきた中里家の系譜をたどりながらご紹介いたします。中里家の陶祖である初代中里又七から現在の十四代中里太郎右衛門の作品まで、過去と現在、時代の中で移り変わってきた唐津焼をご覧ください、その魅力を感じ取っていただければと思います。——— 主催者

唐津焼と中里家

中里家が唐津焼に携わるようになったのは初代中里又七が慶長元年(1596年)、伊万里市大川町に田代窯を開窯したのが始まりとされ、今年で421年目を迎える。その後椎の峯に窯を移し唐津藩の御用窯師を務めるようになる。4代中里太郎右衛門のときに唐津市坊主町に新たな御用窯が築かれ、坊主町御用窯で焼かれたものは当時の藩主の名をとり「土井唐津」と称されている。現在の唐人町(現在の唐津市町田)に御用窯が移ったのは享保19年(1734年)で、以来明治4年(1871年)の廃藩置県まで御用窯を務めた。唐人町で焼かれたものは將軍家や高家等への献上品とされたため「献上唐津」と称されている。廃藩後、唐人町御茶釜窯は中里家によって引き継がれ、11代中里天祐らによって大正13年まで使用された。その後窯は中里無庵(十二代太郎右衛門)、中里逢庵(十三代太郎右衛門)によって受け継がれ、現在は十四代太郎右衛門が築いた3基の登り窯によって窯の火は守り続けられている。

◎唐津市所蔵の中里重利作品も初披露となります。

監修 十四代 中里太郎右衛門による ギャラリートーク

4月8日 Sat 14時—

4月30日 Sun 14時—

※申込不要。要観覧料。

※内容が変更または中止になる場合があります。

あらかじめご了承下さい。



会場——— 唐津市近代図書館 美術ホール
〒847-0816 佐賀県唐津市新興町23番地
電話:0955-72-3467

アクセス——— 電車…JR唐津駅下車、南口より徒歩1分。
バス…バス停「アルビノ前」下車、徒歩5分。

はじまりは唐津から——— 中里家の系譜にみる唐津焼の世界展

Karakatsu 421